

元魔法少女を指名できる風俗店「ダブルヒロイン孕ませ隷嬢コース」

シーン

マリ「なう、1年前に倒したはず！　なんで生きてるの、デビルバツファロー？」

キョウカ「まあ、ウチも見覚えがありますわ。確か2年前に怪異牛鬼として祓つたはずなのに……」

マリ「牛魔男爵？　名前だけ変えてモー、モー威張られても……つく、確かにとらえられているのはあたし達だけとあんたに負けたわけじゃないし！」

キョウカ「マリーはん、これは好機です。牛鬼は腕力だけの怪異やったから力を合わせて」

マリ「そうね！　ここは一気に……」

キョウカ「んきゅうっ？」

マリ「あひっんっ？」

キョウカ「んっ、くうっ……あ、あ……この度はご指名ありがとうございます、ます」

マリ「ぐうっ……え、んあっ……風俗嬢、え、えー？　ま、マリーがご奉仕しま、す」

キョウカ「な、なんやこれー？」

マリ「あたしはまほ……んくうっ……なんで頭の中で風俗嬢つて……さ、催眠洗脳ー？」

キョウカ「うう、ウチもマリーはんと同じように無理やりしゃべらされて……これは大分まずいかも」

マリ「風俗嬢として指定されたサービスには逆らえないだなんて、あり、える……くっ？　ほんとに体が勝手にこいつのそばに座つて、いやっ？」

キョウカ「と、殿方に夜のご奉仕です？　ウチそんな破廉恥なこと……あ、あー？　殿方に自分から触れるなんてことしたことないのにつ……んうっ？　こんなこと……」

マリ「ふー、ふー……絶対こんな下衆な企みぶっぶすー」

キョウカ「恥ずかしすぎて顔真っ赤になるう……え、え……次は殿方の、ええー？　あ、あれをよろこばせるつて……」

マリ「へ、へんたいー？　うあ……ズボンの上からわかるぐらいにもりあがつてるう……」

キョウカ「そんな、おとんのもみたことないのに……んっ……手が勝手にー？」

マリ「くっさいい……え、えー？　手こぎ、ちんぽを手で上下にしごいてせ、せーしを射精させてあげるサービス……ー？」

「ほんと変態！　わざわざ催眠洗脳でエロ知識植え付けるなんて……くうっ？　手が止まらない……こんなやつのアレなんて触りたくも見たくもないのにー？」

キョウカ「か、感想です？ 芯は固いのにな外がぶにぶにで変な感触で、んっ、先っぽが膨らんで初めて見る形やけど……もうかんべんして。も、もつと強く早く？ ふあ、これは手が勝手に……いやあ」

マリ「京香、今は耐えて、んっ……二人で力を合わせればっ、はううっ？ びくってうごいたあー？」

キョウカ「ま、マリはん。そうやね。ウチも頑張るから……うう、ねちゃねちゃして……どんどん透明なお汁あふれてきてるう」

マリ「ふう、ふうっ……んうっ」

キョウカ「はあ、はふ……ふあっ」

マリ「え、シコシコって口に出しながらー？」

キョウカ「うう、そんな恥ずかしいことっ……くう、シコシコ、シコシコ」

マリ「くっさ……シコシコ、こんなこんな下品なことお……シコシコ、シコシコ」

キョウカ「シコシコ、シコシコ……こんなん続けてたらウチの手袋に匂いしみてまうわあ」

マリ「大体、アンタに負けたわけじゃないし！ シコシコ……うう、また固くなってるっ……シコシコ」

キョウカ「魔法少女としての力と御札を取ったぐらいでウチらを無力化できたと……んっ、んー？ シコシコ……あとで、後悔してもしらんから……シコシコ」

マリ「ほんとさいてえっ！ シコシコ、え、えー？ なんか膨らんでるうー？」

キョウカ「はあ、はあ……射精？ うう、シコシコ、シコシコ……てがとまらない」

マリ「きゃっ？ なにこれー」

キョウカ「んっ？ どろどろでめっちゃ嫌な臭いが……ああ、服にも髪にもー？」

マリ「まだでてるうー？ 催眠洗脳で操ってこんなことさせて！ ぜ、絶対に許さないんだから！」

マリ「うう、ひっどい匂い」

キョウカ「汚泥の妖魔と戦った時よりきつい匂いや……」

マリ「ぜ、前戯……」

キョウカ「ひっ、それを入れるなんておなか裂けてしまうからー？」

マリ「うう、コンドームなんて……生なんて絶対ダメー？ わかったから……っ、つければいいでしょ……初めて見たに決まってるでしょー？」

キョウカ「こっ、破って……こんなに薄いので、マリはんもがんばってるからウチもこれぐらい、んしよっ……んしよっ……さっき射精された精液がぬるぬるで……ほめられてもうれしくありませんー！」

マリ「くっっ……ささっとなればいいでしょー……え、サービス？」

キョウカ「ほんまにゲスな考えやのに、抵抗できないなんて……」

マリ「変態！ ほんと変態！」

キョウカ「マリーはんとおまた合わせてベッドに……こんな格好恥ずかしすぎて……」

マリー「ひつー？ あたしたちの間に下品なものつまないでーっ」

キョウカ「あう……手袋越しよりも感触がわかって……気持ち悪い」

マリー「んううっ？ う、うごいてー？ やめっ？ ーんひっ……敏感なところにこりこりこすれてえっ……な、何この感触ー？ 気持ち……わ、わるいわよー？ くうっー」

キョウカ「ひゃあっ？ ーんあっ？ ウチのおまめつぶれちゃうー？ ……ん、んっ？ ……しっかり濡らせいてもー？ あんっ」

マリー「こんなただの生理現象だからー？ ーんううっ？ くさいいき近づけるなあー？」

キョウカ「ふー、ふーー？ 想像なんて……あ、ああー？ ……お腹に先端があたってこんなところまで入るわけ無いのに……」

マリー「はあ、はあ……」

キョウカ「はあ、はふう……っ♡」

マリー「や、やっと終わったあ……え、うそこれからが本番ー？」

キョウカ「じゅ、順番いうても？」

マリー「つく、あ、あたしが代わりになるから……」

キョウカ「だ、ダメやでー？ マリーはん！」

マリー「きゃー？ ほんと下衆で下品な顔、あたしがこれぐら……い、いざっー？」

キョウカ「あ、あー？ マリーはん、なんてこと……」

マリー「だ、大丈夫だか、んあっ？ なにこれえ？ え、え……催眠洗脳で風俗嬢として最低限の奉仕ができるように痛みはすぐに快感にかわるって……ひゃあんー？」

キョウカ「ま、マリーはんー？」

マリー「んひっ？ ずりゅずりゅつて入ってくるー？ 気持ち悪いのにー？ くうっ！ おなか張り裂けそうになるぐらい広げてっ？ なのに、なのに♡」

キョウカ「あ、あ……触れてるおなか越しにウチにも伝わって……マリーはん気をしっかり持つて……」

マリー「う、んううっ♡ これダメー？ 頭おかしくなるっ♡ 気持ち悪いのに、気持ちいいの♡ ひうっ♡ 奥までえっ♡♡♡」

マリー「ひぐっ♡ 突き上げられるっ♡ あ、あ、あ♡ か、感じてなんかあっ♡ ーんひっ♡ 声なんて出したくないのに♡ ひあっ♡ 始めてがこんななんて嬉しくないー？ やあっ♡ こんな雑魚にっ♡ ふぎゅっ♡ ーんくっ♡ ……あ、ああ♡」

キョウカ「くうっ……見てるだけやなんて、ウチなんもできない……ひゃんっ♡ 離してー？ つく、マリーはんの負担が軽くなるんなら……指でなんてー？ ーんっ♡ ウチもいじくられて気持ちよくなるように変えられてるん♡ あ、あ♡」

マリー「はあ、はあっ♡……京香にまで手を出して、ゆるっ♡……んくっ♡ こっちが手出しできないからって……ひっ♡ ひんっ♡……すきほうだいっ♡」

キョウカ「つく、ウチの陰陽術もマリーはんの魔法も封じてしまうなんてありえんのにー？」

マリー「んくうっ♡……ふー♡ ふー♡……ま、負けないんだから♡ これぐらいっー？」

キョウカ「はふんっ♡ ウチから出たお汁で糸引いて……ど、どれだけ辱めればっ、んううっ♡ー？」

マリー「さいつていな命令ー？ はあ♡ はあ♡ 耳元でおちんちんおねだりしろだなんて♡……これは体がかつてに……」

マリー「お、お客様のおチンポで♡ あ、あたしのお♡ おまんこ♡ ぐちゅぐちゅになっちゃいました♡……あ、あ♡ いっぱいついてえ♡……んふう♡ 生意気おまんこ♡ ひいひいさせて♡ 分かせてくださー♡」

マリー「くううっ♡ ばっかじゃないのー？……んううっ♡」

キョウカ「ひやっ♡……う、ウチもおー？」

キョウカ「ふー♡ ふー♡……お客様♡ しつかり、マリーはんで楽しんだ後は♡……んあっ♡……ウチにも♡ お客様のおつきな魔羅でおなさけ♡……はふっ♡……ウチのおまんこにも子種汁そいでくださいな♡……うう」

マリー「やあー？ また早く……♡ あ、あっ♡……私の中ゴリゴリ広げてえ♡ ダメー？ んあっ♡……こんな雑魚牛にいつー？ え、えー？ 我慢せずにあえいでいつてえー？ うそ、ひやあっ♡ あ、あ、あああ♡……んひっ♡ おくまでえっ♡ お、んおっ♡ー……」

キョウカ「あ、あ♡……マリーはんしつかりー？」

マリー「ひぐうっ♡ 頭真っ白になるうー？ ダメー？ ダメー？ おちんぽ止まってー？ 私の奥かきまわさないでえー？」

キョウカ「はあ、はあ♡……マリーはんがあんなにあられない声で……」

マリー「ほんと下品っ♡……んんんっ♡……これ、ぐらいっー？ え、え♡ 出すっ♡ー？ まさ

かー？ あ、あっ♡ 嫌、いやなのに♡ 体が勝手に♡……あ、ああ♡ ああああ♡♡♡……」

マリー「はあ♡……はあ♡……はあっ♡……んあっー？」

キョウカ「ま、マリーはん……え、なんやこれ……っ、あれが出された使用済みのコンドームってー？」

キョウカ「うう、生暖かいですう……あ、あ……新しいコンドームを取り出して、まさか……」

キョウカ「ひっー？ ゴム越しに男の人のアレが……体が動かないっー？ あれは無理やり言わされたんやから……んぐうっー？」

マリー「京香ー？」

キョウカ「くうっー？ そんな……ウチのはじめて……ひうっー？」

マリー「つく、あたしが代わりになるっ……ごめん京香……」

キョウカ「んんっー？……え、ええんやで。マリーはんだけにこんなっ……ひあっ♡ んひっ♡」

マリー「ひやつー？ あそこなめるなー？ つくうつ……これは催眠洗脳のせいで体が勝手にー？」  
キョウカ「あ、あつー？ 大丈夫やから♡ マリーはんも堪えたんやから。んん♡ これぐらいウチも……あん♡ ちよと恥ずかしい声は漏れちゃう……あ、あ♡ ふかい♡♡♡」

マリー「ゆびー？ クリトリスつまんじやダメえー？ つく、足を高くしてあんたの顔のところになんて……くうつ、体がー？ んあつ♡ ひあつ♡♡♡」

キョウカ「ずんずん、ごりごり♡ ……こんなのウチ初めてで♡ ま、マリーはんも堪えてるんだからウチも……ひうつ♡ 出し入れ早くなつて♡ ダメ、ダメやからー？」

マリー「舌がぞりぞりつてー？ 味の感想とかいらなからー？」

キョウカ「ウチ、魔法少女として♡ こんなこと♡ ん♡ ……ぐらいで♡ あ、あ♡ マリーはん♡ マリーはん♡」

マリー「京香ー？ しつかり……んあつ♡ やりたい放題……くうつ♡ 催眠洗脳がこんなに厄介だったなんて……あん♡」

キョウカ「なんて下劣な顔なん……ひうつ♡ なれてなんて♡ 女の子の大事なところ……んうつ♡ こんな乱暴につ♡ あ、あつ♡ 奥叩いてる♡ イく？ イくつてなん……んうつ♡ ……今のがイきそうやなんて知らないー？ 知らんねんから♡♡♡ー？」

マリー「あ、あれがイくつて、こと♡ ……つく、どこまで辱めれば……あ、あ♡ なんで♡ また来ちゃう♡ あたしもまたイっちゃうー？」

キョウカ「ひ♡ ひ♡ ……んひ♡ ……どんどん激しくなつて♡ ウチ、ウチー？」

マリー「あ、あつ♡ こんな下衆なやつ指でえ♡ あ、乳首とクリトリス同時♡ー？」

キョウカ「はあ♡ はあ♡ ……んあつ♡」

マリー「ふー♡ ふあつ♡ ……ああああ♡♡♡」

キョウカ「……あ、あ♡ ……先っぽ膨らんできたあ♡」

キョウカ「イく♡ ウチ、イっちゃいます♡♡♡ー！ー！」

マリー「あ、あ♡ あたしも♡ 指でイかされちゃうつ♡♡♡ー！ー！」

マリー「はあ、はあ、つく、投げ捨てたいのに……あいつの精液の入ったコンドームなんて」

キョウカ「うう、ウチにもこんなに出された……う、うれしくなんてあらへんからっ！」

マリー「次あつたら絶対コロすっ！」

キョウカ「怪異に初めてを散らされて、精子でタプタプのコンドームもつて記念写真まで、負けへんねんからー！」